



平成 20 年度 情報教育研究集会 開催報告

甲斐 郷子¹

1 はじめに

情報教育研究集会（以下研究集会という）は、教育内容、教育方法、教育支援方法等について研究協議する、国内でも最大規模の集会である。参加者は国公立大学等の教職員で、資質の向上と教育および教育支援の充実を図ることを目的としている。主催は国立大学情報教育センター協議会（以下「協議会」と略記）が持ちまわりで行っており、平成 20(2008)年度は九州工業大学情報科学センターが担当することとなった(表 1)。

表 1: 過去の情報(処理)教育研究集会

回	開催年月日	開催校	開催場所
1	S63(1988).10.17	九州工業大学	九州寿会館(飯塚市)
2	H 1(1989).11.16-17	東北大学	仙台市民会館
3	H 2(1990).11.29-30	京都大学	京都府総合見本市会館
4	H 3(1991).12. 3- 4	東京大学	虎ノ門ホール
5	H 4(1992).12.10-11	北海道大学	北海道大学クラーク会館他
6	H 5(1993).12. 9-10	名古屋大学	名古屋大学豊田講堂他
7	H 6(1994).12. 1- 2	九州大学	九州大学 50 周年記念講堂他(箱崎キャンパス)
8	H 7(1995).12.14-15	大阪大学	吹田市文化会館メシアター
9	H 8(1996).12. 6- 7	名古屋工業大学	名古屋工業大学講堂他
10	H 9(1997).10. 3- 4	室蘭工業大学	室蘭工業大学体育館他
11	H10(1998).10.23-24	九州工業大学	九州工業大学記念講堂他(戸畑キャンパス)[1]
12	H11(1999).11.12-13	東北大学	東北大学(川内キャンパス)
13	H12(2000).12. 8- 9	京都大学	京都大学(吉田キャンパス)
14	H13(2001).10.12-13	和歌山大学	アバローム紀の国
15	H14(2002).10.25-26	東京大学	東京大学安田講堂(本郷キャンパス)他
16	H15(2003).11. 7- 8	北海道大学	札幌市教育文化会館他
17	H16(2004).11.26-27	名古屋大学	名古屋大学豊田講堂他
18	H17(2005).11. 4- 5	九州大学	九州大学 50 周年記念講堂他(箱崎キャンパス)
19	H18(2006).11.24-25	広島大学	広島大学サタケメモリアルホール他(東広島キャンパス)
20	H19(2007).11. 9-10	大阪大学	大阪大学コンベンションセンター他(吹田キャンパス)
21	H20(2008).12.12-13	九州工業大学	西日本総合展示場他(北九州市)

¹情報科学センター 准教授 kay@isc.kyutech.ac.jp

なお、平成 20(2008) 年度の協議会メンバーは以下の通りである。

北海道大学(情報基盤センター)、室蘭工業大学(情報メディア教育センター)、
 東北大学(高等教育開発推進センター)、東京大学(情報基盤センター)、
 名古屋大学(情報メディア教育センター)、名古屋工業大学(情報基盤センター)、
 京都大学(学術情報メディアセンター)、和歌山大学(システム情報学センター)、
 大阪大学(サイバーメディアセンター)、広島大学(情報メディア教育研究センター)、
 九州大学(情報基盤研究開発センター)、九州工業大学(情報科学センター)

九州工業大学情報科学センターでは、他大学や学内関連部局等の協力を得て、具体的な準備を進め実際の運営を担当した。本報告書はその概要を記録したものであり、今後の研究集会の準備・運営などに参考になれば幸いである。

2 プログラム概要

第2回(H1(1989)年度)より、研究集会は初日(午後)に主催者挨拶および招待講演からなる全体集会、2日目に一般講演からなる分科会を実施するという構成で実施されてきたが、主催校独自の企画も様々な形で行われており、次年度以降引き継がれて定着しているものもある。第17回(H16(2004)年度)より、研究集会2日目にポスターセッションが実施されるようになり²、第19回(H18(2006)年度)より、初日(午前)に独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)講師によるチュートリアルが実施されている[3]。

今回の研究集会では、初日にチュートリアル、特別セッション、全体集會を、2日目に分科会、ポスターセッションを、また会期中を通して企業展示会を実施した。

このうち、チュートリアルは前年通り NIME より講師を招き、2件実施した。また、同じ時間帯に特別セッションを6件配置した。これらは過去の分科会の特別セッションや全体集會の特別講演で実施されていたものと同様の企画ではあるが、今回の特色としては、企業から講演者を招いたり学会研究会と連動したりして、セッション数の増加を行ったことが挙げられる。このような拡充の結果、全体集會の時間は短縮して実施することとした。

分科会・ポスターセッションは講演希望者が事前登録して行う一般講演である。今回は、分科会会場数の制約があったこと、発表時間が短いことに対する批判があることから、講演件数の制限(分科会130件程度、ポスターセッション30件程度)を行った。分科会では1件あたり発表時間12分、質疑応答3分の持ち時間15分で実施することができた。

ポスターセッションは「情報教育研究」集會にふさわしい情報交換、デモを行う場として重視する方向性を出した。具体的には、1件あたり3分の持ち時間で発表内容をアピールする概要セッションと、その直後にコアタイムを設けることで参加者の流れを作る、ポスターセッション会場の設備を充実するなどの対応を行った。

情報教育を支援するためのハードウェア及びソフトウェアの最新技術や商品を展示する企業展示会では、参加者と企業との意見交換を行うことを可能とするレイアウト、設備を用意した。

プログラム内容に関する詳細については、本広報の別稿[4]をご覧ください。以下にプログラムを掲載する³。

²手元資料および筆者の記憶より、間違いがあればご指摘いただきたい。

2008年12月12日（金）

○ チュートリアル・特別セッション（場所：西日本総合展示場・AIMビル3階展示場）

時間	チュートリアル G会場	特別セッションA F会場	特別セッションB C会場	特別セッションC A会場
10:30～12:30	T1. 米国の大学におけるICT活用のFD 苑 復傑 (NIME)	SA1. CMSの新たな可能性 情報処理学会CMS研究会	SB1. iPhone/iPod touchを用いた教育ソリューションの開発と提供 平原裕之(アップルジャパン)	SC1. 多人数利用を前提とした教育用計算機環境の構築 中山 仁 (九工大)
12:30～15:30	T2. e-Learningと著作権 尾崎史郎 (NIME)	SA2 オープンコンテンツの世界的潮流 JOCW	SB2 Javaのプログラミング教育を楽しむために 山口浩 (SUN)	SC2 高等教育におけるICT活用教育の推進に向けて 山田恒夫 (NIME), 井上仁 (九大)

○ 全体集会・情報交換会（場所：北九州国際会議場）

時間	プログラム
16:00～16:30	全体集会（メインホール） 開会挨拶 下村 輝夫 (九州工業大学 学長) 坂口 昭一郎 (文部科学省 高等教育局専門教育課 企画官)
16:30～17:30	基調講演 「高等学校における情報教育と大学」 永井 克昇 (文部科学省 初等中等教育局 視学官)
17:30～17:45	平成19年度情報教育研究集会 論文賞発表 竹村 治雄, 清川 清 (大阪大学 サイバーメディアセンター)
17:45～18:00	平成21年度情報教育研究集会 開催校挨拶 静谷 啓樹 (東北大学 高等教育開発推進センター)
18:20～20:30	情報交換会（イベントホール）

○ 企業展示会（場所：西日本総合展示場・AIMビル3階展示場）：10:00-17:30

2008年12月13日（土）

○ 分科会（場所：西日本総合展示場・AIMビル3階展示場または新館3階）

時間	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
9:00～10:30	A1. 情報倫理教育 静谷啓樹 (東北大)	B1. メディア等の活用 井上仁 (九大)	C1. リテラシー教育手法 立田ルミ (獨協大)	D1. 情報メディア教育 渡辺博芳 (帝京大)	E1. eラーニングシステム1 山下倫範 (立正大)	F1. 支援システム1 冬木正彦 (関西大)	G1. 教育用基盤ソフトウェア 奥村勝 (福岡大)
10:45～12:30	A2. 情報倫理とセキュリティ 中西通雄 (阪工大)	B2. 初学者向け教育 清川清 (阪大)	C2. 教育手法 日置慎治 (帝塚山大)	D2. 情報教育のあり方 村田育也 (北海道教育大)	E2. eラーニングシステム2 山田恒夫 (NIME)	F2. 支援システム2 林良雄 (秋田大)	G2. 基盤システム1 和田智仁 (鹿屋体育大)
15:00～16:30	A3. 専門情報科目 岡部成玄 (北大)	B3. 文科系における情報リテラシー 西堀ゆり (北大)	C3. 評価手法 西野和典 (九工大)	D3. デジタルコンテンツ 梶田将司 (名大)	E3. eラーニングの活用 梶田秀夫 (京都工繊大)	F3. Webの活用 松浦敏雄 (阪市大)	G3. 基盤システム2 田中哲朗 (東大)

³表内にチュートリアルでは講師，特別セッションではコーディネータ，全体集会では講演者等，分科会では座長の方々のお名前をあげさせていただいた。

○ ポスターセッション（場所：西日本総合展示場・AIMビル3階展示場）

	分科会 (A,C,F,G) 会場	ポスターセッション会場
13:30~14:00	ポスター概要セッション	
14:00~15:00		ポスターセッション (コアタイム)

○ 企業展示会（場所：西日本総合展示場・AIMビル3階展示場）：9:00-16:00

3 数から見た研究集会

第 21 回研究集会の参加者数は 535 名であった（展示企業関係者（人数不明）、研究集会運営スタッフ（65 名）を除く）。内訳を表 2 に示す。

表 2: 参加者の構成

	区分	大学	短大	高専	高校	その他	計
参加人員	国立系	162	0	24	0	5	191
	公立	32	5	1	2	1	41
	私立	208	44	0	1	50	303
	計	402	49	25	3	56	535
学校等 組織数	国立系	42	0	14	0	2	58
	公立	22	5	1	2	1	31
	私立	122	35	0	1	28	186
	計	186	40	15	3	31	275

チュートリアルは 2 件，講演数は 186 件（うち一般講演（分科会，ポスター）は 162 件）であった。講演内訳は，基調講演 1 件，特別セッション 23 件，分科会講演 129 件，ポスター講演 33 件である。これまでの研究集会の講演数の推移を図 1 に示す⁴。

企業展示会へ出展していただいた企業は 28 社 30 ブースであった。

4 実行組織

研究集会の具体的な準備・運営を行うための組織として，実行委員会，実施 WG，企画・プログラム委員会を組織した。実行委員会は大きな方針等を決めるための組織であり，実施 WG はローカルアレンジメントに関する実作業を担当するための組織，企画・プログラム委員会は各種企画やプログラム編成を行うための組織である。

研究集会運営の継続性をはかるため，プログラム委員会は第 19 回（H18(2006)年度）より，当年度，前年度，次年度の開催校のメンバーにより構成されるようになった [3]。今回はそれをさらに拡大し，それ以外のセンター協議会メンバーおよび過去にメンバーであった方を委員とした。

これら委員会の構成委員を表 3 に示す。

⁴特別セッションの講演数を研究集会終了後に再集計したため，研究集会当日に公表した数値 [2] と若干異なる。

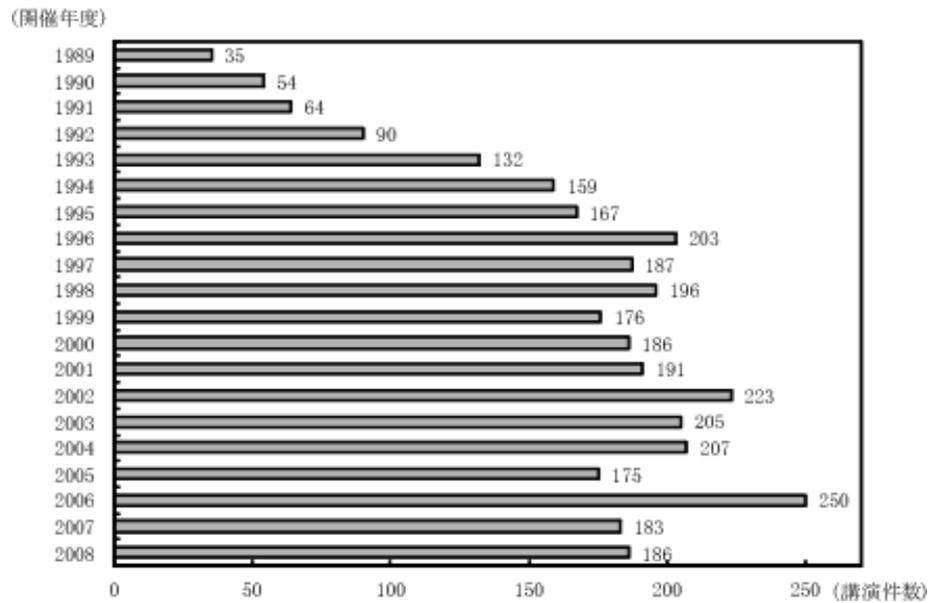


図 1: 講演数の推移

5 準備作業

5.1 企画・プログラム委員会の作業

企画・プログラム委員会を立ち上げる前となるが、まず 2007 年 10 月から翌 2008 年 5 月の間、九工大内有志、および九工大の近隣大学でありセンター協議会メンバーでもある九州大の井上仁先生が九工大飯塚キャンパスに実際に集まり、特別セッション・チュートリアル企画、会場レイアウト、他組織との連携等、今回の研究集会運営に関するブレインストーミングを行った。

2008 年 5 月 16 日に本学、前年度(大阪大)および次年度開催校(東北大)から委員を委嘱、また前年度開催時に研究集会に関する意見交換を行った方々にも委員として参加いただくことにした。当初はセンター協議会と縁のない近隣大学にもご協力いただくことを考えていたが、センター協議会や研究集会運営に関する背景を共有するために要する時間を考えて、今回は見送ることにした。

具体的な作業概要は以下の通りであり、上記ブレインストーミングを除くほとんどはメーリングリスト上で行った。

- 特別セッション・チュートリアル・基調講演の企画、講師・コーディネータへの打診
- (主に分科会) プログラムの編成
- 分科会座長の依頼
- 論文集(冊子・CD-R 版)、プログラム集の作成
- 優秀論文賞論文および優秀ポスター賞発表の選定

表 3: 委員会名簿

委員会名	分掌	氏名	所属等
実行委員会	(委員長)	前田 博	副学長（学術情報担当）
	(副委員長)	中垣 通彦	副学長（教育・学生担当）
	(副委員長)	江島 俊朗	情報科学センター長
		小林 史典	大学院情報工学研究院教授，元理事（教育・情報担当）
	(事務局長)	甲斐 郷子	情報科学センター次長
		潮田 尚次	総務課長
		宮松 ひろみ	総務課情報システム係長
実施 WG		甲斐 郷子	情報科学センター
		福田 豊	情報科学センター
		井上 純一	情報科学センター
		戸田 哲也	情報科学センター
		宮松 ひろみ	総務課情報システム係
		須崎 剛志	総務課情報システム係
企画・プログラム委員会	(委員長)	小林 史典	九州工業大学
		甲斐 郷子	九州工業大学
		大西 淑雅	九州工業大学
		井上 仁	九州大学
		中村 純	広島大学
		清川 清	大阪大学
		静谷 啓樹	東北大学
		磯辺 秀司	東北大学
		岡部 成玄	北海道大学
		中西 通雄	大阪工業大学

5.2 会場設営

会場の選定にあたり，北九州市内で学内外の複数個所を候補に調査を行った．大学施設の利用は，会場費がかからないこと，設備内容を熟知しているので設営計画を立てやすいことなどの利点があった．しかし，研究集会開催期間が金曜～土曜であり，それに設営・撤去期間が前後約1日ずつ加わるため，講義利用に支障が出ることを考えると，断念せざるをえなかった．

全国からの参加想定数が500名程度であるので交通の便がよい場所，分科会および展示会，全体会が行える施設として最終的に選定したのが，JR小倉駅近くの西日本総合展示場・北九州国際会議場である．便利で設備のよい場所であったが，費用削減のため設営企画・設計部分を九工大スタッフが担当したこと，九工大スタッフにとって不慣れな学外施設であったことから，現地調査およびヒアリング，仕様書など設計にかかわるドキュメントの作成に対して多くの時間を費やすこととなった．

具体的な作業概要は以下の通りである．

- 対応
 - － 会場の選定
 - － 間取り，設備，貸出備品，移動経路等に関する現地調査およびヒアリング
 - － 会場からの借用物品・大学からの持ち込み物品・購入物品の選定，借用・購入対応
 - － 設営業者選定，仕様書策定，契約，施工監督
 - － アルバイト対応
- 設営対象
 - － 企業展示会用ブース・倉庫：照明，ネットワーク，電源工事含む
 - － 全体集会会場：舞台，動線，座席，映像・マイク調整
 - － 分科会会場：什器（机，イス等），プロジェクタ，音響機器の配置，借用申請
 - － ポスターセッション会場：什器（机，イス，パネル等）の配置，借用申請，電源・ケーブル敷設，消耗品用意
 - － 受付・休憩スペース：什器（机，イス，パネル等）の配置，借用申請
 - － ネットワーク：外部接続契約（NTT），スイッチ類搬入・設置・設定，ケーブル敷設（業者）
 - － ポスター・看板：デザイン及び印刷，設置場所の指定と設営，各種申請
 - － その他：掲示物作成，掲示場所の指定，掲示

5.3 広報・講演・参加申込・受付対応

講演・参加募集については，所属組織への要項郵送，昨年度参加者のうち希望者に対するメール広報，Web 広報，学会 ML の利用などの手段で行った．以下に具体的な作業概要を示す．

- 組織向け
 - － 集会要項の郵送（大学，高専，短大，高校，教育委員会等宛て．1,257 通）
- 講演者・参加者向け
 - － メール広報：講演募集案内（昨年度参加者のうち希望者：306 通），参加募集案内（昨年度参加者（希望者）＋講演登録者：520 通），プログラム案（講演登録者（重複登録を除く）：155 通）等
 - － Web 広報：講演募集案内，参加募集案内，プログラム，各種お知らせ
- その他
 - － 高校教科「情報」シンポジウム in 九州にて研究集会チラシを配布（2008 年 10 月 26 日）
 - － 情報処理学会九州支部会員 ML での参加募集（2008 年 11 月 7 日）

講演・参加申込，論文集（冊子版，CD-R 版）購入申込の対応については，外部システムの利用を選択した．論文に関わる部分については第 19 回（H18(2006) 年度）で運用実績のあるカンファレンス運営システムを採用した．これにより，第 11 回（H10(1998) 年度）九工大開催時に比較し，かなりの労力が削減された．費用徴収に関わる部分については，北九州市での学会開催で実績のある JTB 参加登録システムを採用した．

研究集会当日に受付にて当日配布した資料は以下の通りである．

- 参加者向け資料配布
 - － 全員：プログラム集，名札入れ，無線 LAN 利用手引，ベストポスター賞投票用紙，研究集会アンケート，その他（パンフレット，観光ガイド等）
 - － 希望者：論文集（冊子版，CD-R 版）
- 座長用向け資料配布：座長向け連絡事項，論文賞投票用紙，担当セッション論文コピー
- ポスター講演者向け配布物：画びょう

5.4 企業展示会対応

過去の研究集会企業展示会の出展企業を中心に募集活動を行った．短期間の募集であったが，募集した 30 ブース分に対して最終的には 30 社を超える申し込みがあり，数社お断りしなければならなかった．また，研究集会の開始直後は展示会会場に立ち寄る参加者が予想より少なかったため，経路誘導，掲示等の集客対応を行った．

企業展示会に関する具体的な作業概要は以下の通りである．

- 出展業者の募集（趣意書郵送（99 通）．Web サイトでの広報．電話・メール勧誘など）
- 展示企業窓口：設営業者およびビル管理者との間の折衝，出展マニュアルの作成，広告原稿取りまとめ等
- 会場設営：ブース設計・設営（1 ブース 3m(幅) × 2m(奥) × 2.5m(高)．パーティション，社名パネル，照明，什器配置，電源・ケーブル配線等）
- 研究集会当日対応：倉庫管理，集客対応（経路誘導，掲示等）
- 入金管理

6 反省点および課題

今回の研究集会では様々な試みを行い，かなりの成果が得られたと自負しているが，以下の通り反省する点も多々ある．

- 参加費等の費用徴収に関わる部分を業者委託したため，研究集会予算管理している大学事務より直接領収書を発行することができないことに付随する問題が発生した

- 資料印刷の都合上、チュートリアル・特別セッションを予約制にしたため、参加できない人が少なからずいた
- 研究集会 Web の立ち上げが 5 月 21 日と遅く、各種検索エンジンでヒットしなかったこともあり、開催場所・期日の周知が遅れた
- バス停・駅からの経路表示を想定していたため、近隣ホテルからの徒歩移動、タクシー利用の人が少なからず迷った
- 特別セッションの企画において、学会や企業との連携を行ったが、初めての試みであったため調整が円滑には行われず、あわただしい対応になってしまった。

これらは早めに気付きさえすれば対応可能な事柄であるが、今後の課題として議論を必要とする以下の項目も残っている。

- 主催校の負担を軽減するために研究集会の実行組織をどう構成するか。
いくつかの作業を外部委託・外注したことにより、主催校の労力がかなり軽減できたことは確かである。また、今回の経験では企画・プログラム委員会を主催校以外が担当することが可能であるとの感触を持った。しかし、様々な人間・組織と協同するために、作業内容を明文化する作業や各組織間を仲介する作業が新たに必要となっている。分業を確立するためには、研究集会運営の形式化、各種ドキュメントの整備、センター協議会事務局の設立が必要かもしれない。
- 講演件数の制限
今回は研究集会で初めて講演件数の制限を設け講演登録を先着順としたため、講演希望者数名の登録をお断りしなければならなかった。また、複数の分科会講演希望者にポスター講演へ移動していただいた。分科会(会場)数、発表時間、講演キャンセルとの兼ね合いもあり、講演件数の制限を設けるべきか否か、設けるのであればどのような形が望ましいかについて、議論の余地がある。
- 論文集の発行形態(冊子版、CD-R 版の 2 種類)
最近では、編集作業の省力化、費用の軽減を目的に、電子媒体での論文集のみとし冊子版論文集を廃止する学会も多い。冊子版論文集を続行するかどうか、またどのような電子媒体が妥当であるかについても、考える必要がある(今回は USB 版の希望があった)。
- 論文集の構成作業
論文原稿(pdf)がカラーの場合、白黒印刷となる冊子版では正しく印刷されない場合があること、論文登録時の所属名・著者リスト・論文タイトルが、論文原稿に記載されているものと異なる場合があることから、目視チェックが必要となっている。著者責任という建前で主催者側の省力化を図るか、品質を保持するかの決断が必要である。
- 企業展示会の運営方法
企業展示の対象としてはハードウェア、ソフトウェア、コースウェア、書籍等が考えられる。費用面・ブース規模から今回の企業展示会では大学の情報系センターが取り扱うよ

うな大きめのシステムが主な対象となったが、参加者の多様な興味へ対応することを考えると、画一的な出展形態ではなく複数の出展形態を可能とする運営方法が望ましいであろう。

7 おわりに

今回の研究集会は様々な方々にご協力・ご支援いただき、成功裡に終えることができた。

まず、日々の情報教育に対し前向きに工夫・研究していらっしゃる講演者・参加者の方々に、感謝と敬意を表す。加えて、基調講演，チュートリアル，特別セッションならびに分科会の構成や進行は，企画・プログラム委員，基調講演講師，チュートリアル講師，特別セッションのコーディネータ，ならびに座長をつとめていただいた方々の御協力によるものである。心から感謝申し上げる。また，時間的な余裕がない中で不況下にも関わらず企業展示会に応募・出展いただいた企業の方々に感謝の意を表す。

ご後援いただいた，文部科学省，独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)，北九州市，福岡県教育委員会，北九州市教育委員会に感謝する。特に費用および各種サービスにおける様々な局面で北九州市および北九州コンベンション協会に，チュートリアル講師派遣においてはNIMEに大変お世話になった。また，本研究集会の運営は，九州工業大学本部事務局をはじめとする関係各位の御協力を得て実施することができた。これらの皆様に厚くお礼を申し上げる。

なお，来年度の研究集会は以下の通り東北大学にて開催される。来年度の研究集会がより一層の発展，成功することを心から祈念する。

開催場所： 東北大学川内キャンパス（仙台市青葉区川内 41 番地）

開催日時： 平成 21(2009)年 11 月 14 日（土）～15 日（日）

担当： 東北大学高等教育開発推進センター

サイト： <http://www.ise.he.tohoku.ac.jp/conf2009/>

参考文献

- [1] 甲斐 郷子: 平成 10 年度 情報教育研究集会開催報告, 九州工業大学情報科学センター広報 第 11 号, pp.5-16(1999).
- [2] 情報(処理)教育研究集会について, 平成 20 年度情報教育研究集会論文集, pp. ii-iii(2008).
- [3] 中村 純, 隅谷 孝洋, 稲垣 知宏, 長登 康: 情報教育の国内研究集会のあり方についての提言－2006 年情報教育研究集会の経験から－, 情報処理学会研究報告 2008-CE-93, pp.107-111(2008).
- [4] 小林 史典: 情報が教育に道を拓く－情報教育研究集会を企画して－, 九州工業大学情報科学センター広報第 21 号, pp.3-11.